

日本最古の暦：スズ暦とアスズ暦の仕組 (神代および初代神武天皇から第13代成務天皇まで)

梶 慶 輔*

1. はじめに

前回の月例卓話 303 では「弥生人の原郷と日本語のルーツ：サンスクリット起源説」について書かせて頂いた¹。今回は「ホツマツタエ」と称する古文書²に書かれた「日本最古の暦」を紹介する。

この古文書はア行が口の形を模した仮名文字で書かれているので「オシテ (ausht`ha=lip-shaped)」文献あるいは神々に捧げる祭文の意で「ヲシテ (vaushat')」とも言い、全体が**五七調の歌謡形式**になっている。この形式は古代インドのアーリヤ人の聖典「リグ・ヴェーダ (Āg-Veda)」などで用いられたものの1つである³。「ホツマツタエ」も「ホートリ神官によって与えられた伝承」という意味で、サンスクリットの「ホチ_Bマト (hotri-mat=given by Hotri)」を語源とする。ここで、ホートリ神官 (Hotri) というのは古代インドの四階級すなわち「バラモン (司祭)・クシャトリア (王族)・ヴァイシャ (平民)・シュードラ (隷属民)」の最高位に有り「世界に存する如何なる物も、悉くバラモンの所有なり。」とされ、国を与える権限をも有していた⁴。なお、「ホツマ」という語は日本書紀・神武記の最後にも見られるので参照されたい (補注1)。

さて、この古文書は第12代景行天皇の御代に作成されたもので、前半はこの書の作成以前に書かれたものをそのまま再録したと言われている。内容は神代^{じんたい}と初代神武天皇から第十二代景行天皇までの天皇の記録である。後者は日本書紀の記述とほぼ一致するが、神代^{じんたい}に関しては日本書紀のように神話ではなく史実として描かれている。

重要なことは、この「ホツマツタエ」に**スズ暦**

と**アスズ暦**と称される2つの暦が書かれていることである。前者は神代^{じんたい}すなわち天神の御代の暦であり、後者はそれに続く天皇の御代の暦である。しかし、これまでこれらの暦の仕組みが良く分かっていなかった。筆者はこの問題を解明することによって神代^{じんたい}から**持統天皇までの絶対年代**を決定することに成功したので本稿で紹介する。

2. スズ暦とアスズ暦の仕組

緒言で述べた如く「ホツマツタエ」に書かれた「スズ暦」と「アスズ暦」の仕組みについては、これまでよく分かっていなかった²。しかし、その手掛かりはこれらの暦がいずれも**春秋二倍暦**すなわち1年を春年と秋年の2年に数えることである。このような暦は弥生人の原郷すなわち古代インドのガンガー川流域で用いられたもので、新月～満月の15日間を**白分**、満月～晦日の15日間を**黒分**と称し、それぞれを一ヶ月としていたからである⁵。なお、「スズ」も「アスズ」もサンスクリット語で前者は「スジュナーナ (su-jñāna=easy to be understood)」(分かり易い)、後者は「アー・スジュナー (ā=further, additional+su-jñāna)」(スズに次ぐ) という意味である。

以下に、これらの暦の仕組みについて説明する。

(1) スズ暦の仕組

天神の御代を記述するスズ暦は表1に示す如く春秋二倍暦で6年 (通常年では3年) を1単位とし、これを「1スズ」としている。6年を1単位とする理由は以下の如く推定される。春秋二倍暦では1ヶ月は通常暦 (30日) の半分の15日

*京都大学名誉教授

ある。1年はその12ヶ月で15日×12月=180日、2年で360日となり通常暦にほぼ対応する。しかし、実際の暦では1年は365日であるからそれに較べると5日足りない。これを補うため6年（通常暦では3年）毎に15日（=5日×3）の閏月^{うるうづき}を挿入し補正している。すなわち、スズ暦で6年を1単位（1スズ）とするのは閏月を挿入するためと思われる。ここで、閏^{うるう}もサンスクリット語の「ウルウ（urue=extended）」（延長された）が語源であり、「閏月」は「延長月」を意味する。

さて、このスズ暦の全期間は表1に示すごとく「50スズ」で、初代天神^{くにのとこたちのみこと}常立尊のときに施行され、第12代天神^{うがやふきあわせずのみこと}鷲鷲草葺不合尊で終わっている。それ故、この暦の全期間は春秋二倍暦で300年、通常暦で150年に相当する。これに続く天皇の御代^{みよ}の暦が下記に示す「アスズ暦」で、これから西暦との対応がつく。

(2) アスズ暦の仕組

アスズ暦（表2）は天神^{あまかみ}に継ぐ天皇の御代^{みよ}に対応する暦であり、スズ暦と同様「春秋二倍暦」を踏襲している。以下ではこの暦が日本書紀に書かれた暦と一致するか、一致するとすれば何代^{なによ}の天皇まで適用されたかを検証する。

a) アスズ暦は日本書紀の暦と一致するか

日本書紀では年と日が干支（すなわち、年干支・日干支）で書かれており、「年干支」は特に「太歳^{たいさい}」と呼ばれている。アスズ暦と日本書紀の暦を比較するための最も適当な年代は神武天皇の即位年である。神武元年はホツマツタエでは「アスズ58年」となっているが、日本書紀の太歳干支^{かのとり}は「辛酉」である。驚いたことにこの太歳干支の順番は丁度「58番目」に当っておりアスズ暦の58年に一致している（表2参照）。

したがって、アスズ「元年」は日本書紀の太歳干支^{きのえね}の最初の年である「甲子」と一致することになり、ホツマツタエと日本書紀の年号は完全に一致することが分かる。それでは、この暦は何代^{なによ}の

天皇まで適用されたであろうか。以下で検証する。

b) アスズ暦は何代^{なによ}の天皇まで用いられたか

アスズ暦は少なくとも「ホツマツタエ」を作成した第12代景行天皇の御代^{みよ}までは用いられた筈である。これを確認するためのキーワードの一つは天皇の崩御年齢すなわち^{ほうご}宝算である。宝算は第2代綏靖天皇・第3代安寧天皇・第4代懿徳天皇・第8代孝元天皇・第9代開化天皇を除けば春秋二倍暦であることは明らかである。すなわち、初代神武天皇の宝算は127歳、第5代孝昭天皇の宝算は113歳、第6代孝安天皇は137歳、第7代孝霊天皇は128歳、第10代崇神天皇は120歳、第11代垂仁天皇は140歳、第12代景行天皇は106歳でいずれも100歳以上である。このことはこれらの暦が春秋二倍暦であることは明らかである。

上述の如く初代神武天皇から第12代景行天皇までは春秋二倍暦を用いたと考えられるが、春秋二倍暦は第12代景行天皇までで終わったであろうか。緒言でも述べた如く「ホツマツタエ」は景行天皇の御代に作成されたものであるが、次の第13代成務天皇の御代まで適用されたと考えられる。何故ならこの天皇の宝算も107歳とかなり長いからである。これに対して、次の第14代仲哀天皇の宝算は52歳であり、当時としては妥当な寿命であるからこの御代で通常暦に変更された可能性が高い。これを支持するもう一つの事実は第13代成務天皇の崩御年と第14代仲哀天皇の即位年との間に春秋暦で空位が1年存在することである。

すなわち、成務天皇の崩御（成務60年）は^{かのえうま}庚午（年干支番号⑦）6月11日であり、仲哀天皇が即位したのは^{みずのえさる}壬申（年干支番号⑨）1月1日あるから、^{かのとひつじ}辛未（年干支番号⑧）の年は空位となっている。これはこの年が春秋二倍暦では秋年になり、通常暦では7月～12月に対応するので春秋二倍暦から通常暦に変更するためにはこの年を空位とし、翌年の春年から新年にする必要があった

ためと思われる。

なお、この時代（第14代仲哀天皇の御代）に春秋二倍暦から通常暦に変更した理由は、仲哀天皇のお后であった神功皇后時代に中国との交流が盛んになってきたためであろう（表2参照）。以上のことから春秋二倍暦は第13代成務天皇まで続いたと結論することが出来る。

文献

1. 梶 慶輔「海洋化学研究」29, p. 37, 2016.
2. 鳥居礼著「完訳・秀真伝」(上下)八幡書店, 1988; 松本善之助監修, 池田満編著「定本・ホツマツタエ」展望社, 2002; 池田満校訂「記紀原書・ヲシテ」(上下)展望社, 2004; 今村聡夫著「はじめてのホツマツタエ」(上中下)太陽出版, 2015.
3. 梶 慶輔「京大広報」No. 720 (2016. 3), 4591.
4. 田辺繁子訳「マヌの法典」岩波書店 1977).
5. 岡田芳朗著「アジアの暦」, 大修館, 2002.

【補注】

「ホツマ」という語は日本書紀（巻第三，神武天皇三十一年）にも見られる。

『昔、伊弉諾尊、此の国を^{なづ}目けて曰はく、「日本^{やまと}は浦安^{うらやす}の国、細^{くはし}戈^{ほこ}の千^ち足^だる国、磯輪^{しわかみ}上^{ほつまくに}の秀真^{ほつまくに}国。秀真^{ほつまくに}国、これをば袍^{ほつまくに}図^ま莽^ま句^く爾^にと云ふ」とのたまひき。』

この記述で、「磯輪上」は未詳とされているが、これは「磯輪神^{しわかみ}」の誤訳である。何故なら、磯輪上の「上」の古音は「カン」であり、「カミ」は「神」でなければならないからである。すなわち、磯輪神はサンスクリットで「シヴァ (Śiva) 神」を意味する。「浦安^{うらやす}」も「ホートリ・ヴールヤ (hotri-vūrya)」の略で「ヴールヤ (vūrya=to choose, select)」は「選ぶ」という意味であるから「ホートリ神官が選んだ」国という意味になる。

【前報の訂正】

海洋化学研究, 第29巻第1号 (2016) p. 41 掲載の月例卓話「弥生人の原郷と日本語のルーツ：サンスクリット起源説」で、サンスクリット語源の実例」として挙げた「あほう (阿呆)」の語源が間違っておりました。下記の如く訂正します。

「あほう (阿呆)」の語源：これに近いサンスクリットは「アボダ (a-bodha=ignorant, stupid)」または「アブダ (a-budh, a-budha=stupid, a fool)」で、三重県志摩郡の方言「あほだほ」に近い。

表1 スズ暦の仕組

西暦	スズ暦	春秋暦 (スズ×6)	太歳	天神 (即位時期)	西暦	スズ暦	春秋暦 (スズ×6)	太歳	天神 (即位時期)
BC 411	元年	1	甲子	初代国常立尊	BC 336	26	151	甲午	
BC 409		6	己巳		BC 334		156	己亥	
BC 408	2	7	庚午	二代国狭槌尊	BC 333	27	157	庚子	
BC 406		12	乙亥		BC 331		162	乙巳	
BC 405	3	13	丙子	三代豊国主尊	BC 330	28	163	丙午	
BC 403		18	辛巳		BC 328		168	辛亥	
BC 402	4	19	壬午		BC 327	29	169	壬子	
BC 400		24	丁亥		BC 325		174	丁巳	
BC 399	5	25	戊子	四代大瀦煮尊	BC 324	30	175	戊午	
BC 397		30	癸巳		BC 322		180	癸亥	
BC 396	6	31	甲午		BC 321	31	181	甲子	十代 火明尊 十代瓊々杵尊
BC 394		36	己巳		BC 319		186	己巳	
BC 393	7	37	庚子		BC 318	32	187	庚午	
BC 391		42	乙巳		BC 316		192	乙亥	
BC 390	8	43	丙午	五代大殿内尊	BC 315	33	193	丙子	
BC 388		48	辛亥		BC 313		198	辛巳	
BC 387	9	49	壬子		BC 312	34	199	壬午	
BC 385		54	丁巳		BC 310		204	丁亥	
BC 384	10	55	戊午		BC 309	35	205	戊子	
BC 382		60	癸亥		BC 307		210	癸巳	
BC 381	11	61	甲子	六代 面足尊	BC 306	36	211	甲午	十一代 火々出見尊
BC 379		66	己巳		BC 304		216	己亥	
BC 378	12	67	庚午		BC 303	37	217	庚子	
BC 376		72	乙亥		BC 301		222	乙巳	
BC 375	13	73	丙子		BC 300	38	223	丙午	
BC 373		78	辛巳		BC 298		228	辛亥	
BC 372	14	79	壬午	七代伊弉諾尊	BC 297	39	229	壬子	
BC 370		84	丁亥		BC 295		234	丁巳	
BC 369	15	85	戊子		BC 294	40	235	戊午	
BC 367		90	癸巳		BC 292		240	癸亥	
BC 366	16	91	甲午	天照神誕生	BC 291	41	241	甲子	
BC 364		96	己巳		BC 289		246	己巳	
BC 363	17	97	庚子		BC 288	42	247	庚午	十二代鵜草 草不合尊
BC 361		102	乙巳		BC 286		252	乙亥	
BC 360	18	103	丙午		BC 285	43	253	丙子	
BC 358		108	辛亥		BC 283		258	辛巳	
BC 357	19	109	壬子		BC 282	44	259	壬午	
BC 355		114	丁巳		BC 280		264	丁亥	
BC 354	20	115	戊午	八代 天照神	BC 279	45	265	戊子	
BC 352		120	癸亥		BC 277		270	癸巳	
BC 351	21	121	甲子		BC 276	46	271	甲午	
BC 349		126	己巳		BC 274		276	己亥	
BC 348	22	127	庚午		BC 273	47	277	庚子	天照神上り
BC 346		132	乙亥		BC 271		282	乙巳	
BC 345	23	133	丙子	忍穂耳尊誕生	BC 270	48	283	丙午	
BC 343		138	辛巳		BC 268		288	辛亥	
BC 342	24	139	壬午		BC 267	49	289	壬子	
BC 340		144	丁亥		BC 265		294	丁巳	
BC 339	25	145	戊子	九代忍穂耳尊	BC 264	50	295	戊午	
BC 337		150	癸巳		BC 262		300	癸亥	

表2 アスズ暦と太歳の関係

西 暦	アスズ暦 (年)	干支計算式	太歳	天皇紀年	天皇即位/崩御	宝算 (崩御年令) 日本書紀・古事記 (春秋年)
BC 261 春	1	1	甲子			
258 春	7	7	庚午		神武誕生	鸕鷀草葺不合尊の息子
251 春	21	21	甲申		神武立太子	紀 15
233 秋	58	58	辛酉	神武元年	神武天皇即位	紀 52
195 春	133	60×2+13	丙子	神武 76 年	神武天皇崩御	紀 127・記 137
195 秋	*134	60×2+14	*丁丑	綏靖元年	綏靖天皇即位	
*アスズ暦の干支 (丁丑) は日本書紀とは合わない。紀では太歳が2つあり、即位前紀は己卯 (16)、綏靖元年紀は庚辰 (17)、崩年 (33 年) から判断すると後者が妥当でアスズ 137 年に相当。相競争いによる空位期間が3年あったと思われる。						
BC 177 春	169	60×2+49	壬子	綏靖 33 年	綏靖天皇崩御	紀 84・記 45
177 秋	170	60×2+50	癸丑	安寧元年	安寧天皇即位	
158 春	207	60×3+27	庚寅	安寧 38 年	安寧天皇崩御	紀 57・記 49
158 秋	208	60×3+28	辛卯	懿徳元年	懿徳天皇即位	
141 春	241	60×4+1	甲子	懿徳 34 年	懿徳天皇崩御	紀 79 (推定)・記 45
140 春	243	60×4+3	丙寅	孝昭元年	孝昭天皇即位	
101 春	325	60×5+25	戊子	孝昭 83 年	孝昭天皇崩御	紀 113 (推定)・記 93
101 秋	326	60×5+26	己丑	孝安元年	孝安天皇即位	
50 春	427	60×7+7	庚午	孝安 102 年	孝安天皇崩御	紀 137 (推定)・記 123
50 秋	428	60×7+8	辛未	孝靈元年	孝靈天皇即位	
12 春	503	60×8+23	丙戌	孝靈 76 年	孝靈天皇崩御	紀 128 (推定)・記 106
12 秋	504	60×8+24	丁亥	孝元元年	孝元天皇即位	
BC 1 春	525					
BC 1 秋	526					
AD 1 春	527					
AD 1 秋	528					
AD 17 秋	560	60×9+20	癸未	孝元 57 年	孝元天皇崩御	紀 116 (推定)・記 57
17 秋?	*560	60×9+20	*癸未	開化元年	開化天皇即位	
*この年数は誤りか。紀の太歳は甲申 (21) であり、アスズ 561 年に相当する。						
47 秋	620	60×10+20	癸未	開化 60 年	開化天皇崩御	紀 115・記 63
48 春	621	60×10+21	甲申	崇神元年	崇神天皇即位	
81 秋	688	60×11+28	辛卯	崇神 68 年	崇神天皇崩御	紀 120・記 168
82 春	689	60×11+29	壬辰	垂仁元年	垂仁天皇即位	
131 春	787	60×13+7	庚午	垂仁 99 年	垂仁天皇崩御	紀 140・記 153
131 秋	788	60×13+8	辛未	景行元年	景行天皇即位	
158 春	841	60×14+1	甲子	景行 54 年	景行天皇ヒシロノミヤに帰還	
159 春	843	60×14+3	丙寅	景行 56 年	ホツマツタエ奉納	
161 春	847	60×14+7	庚午	景行 60 年	景行天皇崩御	紀 106・記 137
AD 161 秋	848	60×14+8	辛未	成務元年	成務天皇即位	
191 春	907	60×15+7	庚午	成務 60 年	成務天皇崩御	107 歳・記 95
以下、春秋暦を通常暦に切替のため 908 年 (秋年) は空位とした。以後の太歳は通常年の 1 年に対応させている。西暦との対応は、神功皇后時代の魏との交流から決定出来る。						
AD 192		9	壬申	仲哀元年	仲哀天皇即位	
200		17	庚辰	仲哀 9 年	仲哀天皇崩御	紀 52・記 52
200					神功皇后神主となる	
201		18	辛巳	摂政元年	神功皇后摂政となる	
239		56	己未	摂政 39 年	・魏に遣い (明帝景初 3 年)	
240		57	庚申	摂政 40 年	・魏より「親魏倭王」の印綬贈られる (少帝正始元年)	
243		60	癸亥	摂政 43 年	・魏に答礼の遣い (正始 4 年)	
245		2	乙丑	摂政 45 年	・魏より黄幡賜る (正始 6 年)	
247		4	丁卯	摂政 47 年	神功皇后崩御? (正始 8 年)	
(注) 北史に「正始中、卑弥呼死す」とある (正始は 9 年まで)。						
266		23	丙戌	摂政 66 年	・倭の女王晋の武帝に遣い (泰初 2 年)	
(注) 倭の女王とは卑弥呼の宗女臺与のことか?						
AD 269		26	己丑	摂政 69 年	神功皇后崩御	紀 100・記 100
270		27	庚寅	応神元年	応神天皇即位	
272		29	壬辰	応神 3 年	・百濟辰斯王即位	
(注) 百濟辰斯王の即位は三国史記では西暦 392 年 (壬辰) となっている。しかし、この年 (アスズ 989 年) は泰初 2 年 (西暦 266 年、アスズ 983 年) の 6 年後の西暦 272 年の筈で 120 年のずれがある。三国史記 (新羅・高句麗・百濟の三国に関する朝鮮最古の史書で AD1145 年に完成) は日本の年代法に準じている筈であるが、西暦との対応を 2 周り誤ったものと考えられる。						
AD 310		7	庚午	応神 41 年	応神天皇崩御	紀 110・記 130

西 曆	アスズ曆 (年)	干支計算式	太歳	天皇紀年	天皇即位／崩御	宝算 (崩御年令) 日本書紀・古事記 (春秋年)
313		10	癸酉	仁徳元年	仁徳天皇即位	
405		42	乙巳	履中 6 年	履中天皇崩御	紀 70・記 64
406		43	丙午	反正元年	反正天皇即位	
410		47	*庚戌	反正 5 年	反正天皇崩御	記 60 歳
*紀には丁卯 (4) に崩御とあるが、誤りであろう。						
AD 412		49	壬子	允恭元年	允恭天皇即位	
453		30	癸巳	允恭 42 年	允恭天皇崩御	紀 78・記 78
454		31	甲午	安康元年	安康天皇即位	
455		32	乙未	安康 2 年	安康天皇暗殺	紀 50 余・記 56
457		34	丁酉	雄略元年	雄略天皇即位	
479		56	己未	雄略 23 年	雄略天皇崩御	紀 62 (推定)・記 124
480		57	庚申	清寧元年	清寧天皇即位	
484		1	甲子	清寧 5 年	清寧天皇崩御	
485		2	乙丑	顕宗元年	顕宗天皇即位	
487		4	丁卯	顕宗 3 年	顕宗天皇崩御	紀 48 (推定)・記 38
488		5	戊辰	仁賢元年	仁賢天皇即位	
498		15	戊寅	仁賢 11 年	仁賢天皇崩御	
499		16	己卯	武烈元年	武烈天皇即位	
506		23	丙戌	武烈 8 年	武烈天皇崩御	紀 18, 57, 61 ?
507		24	丁亥	繼体元年	繼体天皇即位	
531		48	辛亥	繼体 25 年	繼体天皇崩御	紀 82・記 43
534		51	甲寅	安閑元年	安閑天皇即位	
535		52	乙卯	安閑 2 年	安閑天皇崩御	
536		53	丙辰	宣化元年	宣化天皇即位	
539		56	己未	宣化 4 年	宣化天皇崩御	紀 73
540		57	庚申	欽明元年	欽明天皇即位	
571		28	辛卯	欽明 32 年	欽明天皇崩御	紀 62, 63, 81 ?
572		29	壬辰	敏達元年	敏達天皇即位	
585		42	*乙巳	敏達 14 年	敏達天皇崩御	紀 24, 48, 61 ?
*敏達記には甲辰 (41) 4 月 6 日崩御とある。						
AD 586		43	丙午	用明元年	用明天皇即位	
587		44	丁未	用明 2 年	用明天皇崩御	紀 41, 69 ?
588		45	戊申	崇峻元年	崇峻天皇即位	
592		49	壬子	崇峻 5 年	崇峻天皇暗殺	紀 72, 73 ?
593		50	癸丑	推古元年	推古天皇即位	
(注) 聖徳太子 (厩戸豊聡耳皇子) を摂政とする。推古天皇 37 歳。						
AD 628		25	戊子	推古 36 年	推古天皇崩御	紀 75
629		26	己丑	舒明元年	舒明天皇即位	
641		38	辛丑	舒明 13 年	舒明天皇崩御	紀 49 (推定)
642		39	壬寅	皇極元年	皇極天皇即位	
645		42	乙巳	皇極 4 年	皇極天皇讓位	
645		42	乙巳	大化元年	孝徳天皇即位	
(注) この年 (AD 645), 大化改新。						
AD 649		46	己酉	大化 5 年		
650		47	庚戌	白雉元年		
(注) 年号を白雉と改称						
AD 654		51	甲寅	白雉 5 年	孝徳天皇崩御	
655		52	乙卯	齊明元年	齊明天皇即位	
661		58	辛酉	齊明 7 年	齊明天皇崩御	紀 61, 68 ?
662		59	壬戌	天智元年	天智天皇即位	
671		8	壬戌	天智 10 年	天智天皇崩御	紀 46, 47 ?
672		9	壬申	天武元年	天武天皇即位	
685		22	乙酉	天武 14 年		
686		23	丙戌	朱鳥元年	天武天皇崩御	
(注) 年号を朱鳥と改称。						
AD 687		24	丁亥	持統元年	持統天皇即位	
690		27	庚寅	持統 4 年	持統天皇即位	
697		34	丁酉	持統 11 年	持統天皇讓位	
以上で日本書紀の記述終わる。梶慶輔著, 繊維学会誌 70, P-7 (2014) 参照。						